

森林情報の「見える化」を通じた伴走支援

静岡県賀茂農林事務所
森林整備課 主査 伊藤允彦

はじめに

私が担当する静岡県賀茂地域は、伊豆半島南部に位置し、急峻で複雑な地形が広がっています。人工林は存在するものの、スギ・ヒノキがまとまって分布する地域は

限られ、主伐や再造林を計画的に進めるには多くの制約がありました。その結果、森林施業は小規模・断続的になり、生産性や収益性の確保が大きな課題となっていました。

森林総合監理士として地域の課題を解決するためには、市町、林業経営体、森林所有者といった多様な関係者の間に立ち、それぞれの立場や言葉の違いをつなぎながら、地域が自ら考え、判断し、行動できるように伴走する必要があります。

その中で重要だと感じてきたのが、高精度な森林情報を地域で共有した上で、皆で目指すべき森林の姿を考える風土をつくることでした。

データを使う情報にする

賀茂地域では、航空レーザ測量による三次元点群データが整備されており、材積や微細な地形を把握できる高精度な森林情報が揃っていました。しかし、データが存在するだけでは、現場の判断や行動にはつながりません。

そこで、林業経営体が主体となり、国、県、市町がオブザーバーとして参加している地域の協議会を通じて、林業経営体にデータを共有し、GISソフトの導入や操作支援を行いました。

「ノキがある」「材積が多い」だけでなく、傾斜、路網からの距離、標高、作業システムなど、複数条件を掛け合わせて、効率的で収益性の高い生産適地を抽出し、地図として「見える化」しました。

森林総合監理士の役割・視点

データを利活用した「計画立案」の風土をつくる。

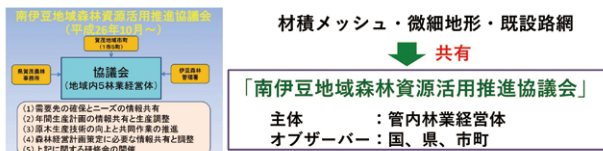
みんなで「あるべき姿」を共有する。



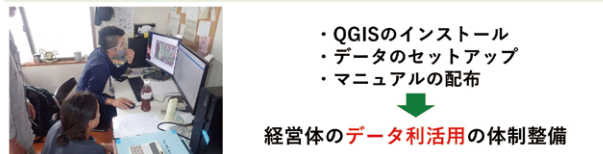
高精度な情報を「見える化」し 同じものを見て、「あるべき姿」を考える。

データ共有と利用支援

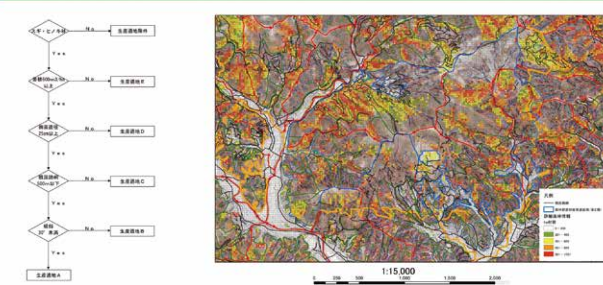
1 地域の協議会を通じ、データを提供



2 各林業経営体へ訪問し、データを整備

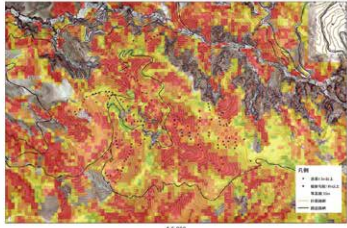


生産団地設定と森林経営計画支援



- ・各市町・各経営体へのヒアリングを基に、主伐適地を設置するフロー図を作成
- ・フロー図を基に主伐適地を設定し、森林経営計画の作成を支援
- ・各市町・経営体において合意形成を図るため、地域の協議会において森林経営計画の拡大方針をGIS上で共有

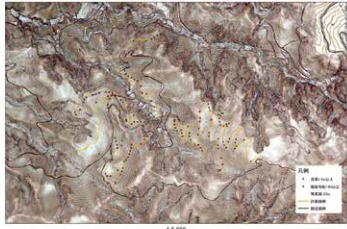
路網線形・作業システムの検証



10m × 10m区域材積情報

↓
目標収穫量を設定

↓
主伐・間伐のストックを把握



- ・CS立体図
- ・路網設計支援ソフト

↓
線形の妥当性検証（机上）

↓
施工方法等現地指導

データを利用した計画づくり

地図を囲んで話し合うことで、現場の議論は大きく変わります。

「この斜面なら作業道を通せよ」「これは主伐をまとめた方が効率的だ」といった具体的な検討が進み、生産団地の設定や森林経営計画の作成、路網線形や作業システムの検証を、市町や林業経営体が一体となって行うことができました。

また、机上の計画と現地確認を往復しな

から支援することで、計画の実効性も高まっています。

伴走支援の成果

令和3年度から令和7年度まで支援を継続したことで、主伐・再造林の面積は着実に増加し、素材生産量も安定的に推移するようになりました。数値としての成果はもちろんですが、何より大きな変化は、現場の意識です。補助金申請や検査といった日常業務も、見方を変えれば重要な支援の機

市町村森林整備計画での区域設定支援

航空レーザ解析結果の活用等による主伐・間伐適地の把握

↓
生産性の高い木材生産団地の設定

↓
生産基盤（高規格作業道）の整備
森林経営計画の作成促進

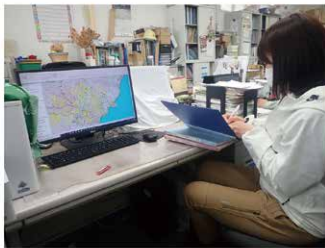


生産団地

生産団地データを市町に提供

↓
各市町を訪問指導

↓
「特に効率的な施業が可能な森林の区域」の設定支援



各市町を訪問指導

森林づくりに唯一の正解はありません。だからこそ、同じ情報共有し、同じ景色を見ながら、「あるべき姿」を対話の中で探り続けることが重要だと考えています。森林総合監理士は、その対話を支え、森林と地域の未来をつなぐ存在です。賀茂農林事務所での取組が、各地での森林づくりを考える一助となれば幸いです。

これからの森林づくりに向けて

森林総合監理士の仕事は、特別な場面だけでなく完結するものではありません。日々の業務の中で、地域の力を引き出していく役割だと感じています。森林づくりに唯一の正解はありません。だからこそ、同じ情報共有し、同じ景色を見ながら、「あるべき姿」を対話の中で探り続けることが重要だと考えています。森林総合監理士は、その対話を支え、森林と地域の未来をつなぐ存在です。賀茂農林事務所での取組が、各地での森林づくりを考える一助となれば幸いです。

森林総合監理士の役割と視点

伴走支援により地域の「出来ること」を増やす

補助金業務等、通常業務の中に落とし込む

路網設計支援ソフトで路線線の妥当性を検証



旧版地形図・空中写真で計画していた。 → CS立体図・計画図の業務実装 → 中長期計画・収支予測の業務実装

市町・経営体の「技術力向上」を伴走支援「森づくりを構想できる実感」を地域に根差す。

普段の業務を「捉え直す」

業務区分	補助要望	補助申請	状況報告	実績報告
行為	受理	審査	確認	検査
再定義	経営計画の熟度向上	施業提案の熟度向上	計画の進捗支援	計画→実行の振り返り

補助金事務をとらえ直し、計画熟度向上のタイミングをつくる。

補助金業務を支援の機会と捉え直し、経営体等と自身の「できる実感」を共に伸ばしていく。

